

孤礁上の難工事

遇岩燈標建設工事概要

序 説 遇岩は大連灣外南西約25浬、旅順東方25浬の海上、即北緯 $38^{\circ} 34' 22''$ 東經 $121^{\circ} 38' 13''$ の地點に在り、東西約200尺、南北僅かに20尺の間に散在する大小七箇の岩礁よりなり、干出約10尺を最高す。燈標は内10尺を突出せる最高礁上に之を建設す。

抑も遇岩附近は潮流3浬を越え、然も濃霧の襲來頻りにして且近海既設燈標亦甚だ多からざるため、遞信省燈臺局に於ては、工費豫算67,000圓を以て燈標建設に決し、大正十四年四月十八日着工、同年八月二十七日竣工を告ぐ。此間日を要するこ實に130日、近來の難工事と謂ふべし。

陸上準備及作業船 工事に先立ち陸上準備に着手せるは四月十八日にして、作業船は滿鐵埠頭事務所海運課（以下凡て單に何課と稱す）より汽船大連丸(430噸)を借用せり。

基礎岩盤掘鑿 岩盤掘鑿には四月二十三日着手せるも、岩状狭少且錐體をなせるため六、七人が辛うじて上り得るに過ぎず、作業非常に困難なるを以て、原設計より徑3尺を縮少し、干潮時を利用し且海面靜穏なる日を選びて從業せるも、工作器具其他準備のため凡て日歸りせり。

掘鑿にはダイナマイトを使用したるも、其爆破に際し避場所なく僅かに四、五間を離るゝ岩角度に據りては危険を冒して續行す。斯くして作業するこ75時間、日數23日にして幅4尺内外、深さ3乃至4尺、所によりては

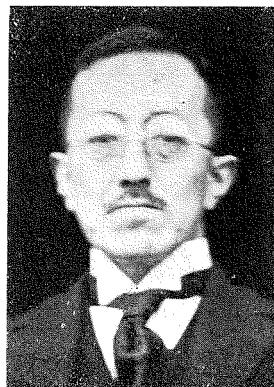
幅6尺、深さ7尺の圓型に掘鑿除去せり。

此間作業船は當初の内は附近を流しあきしも急潮流につれ遠く漂流するため、之が繫留用錨として別に工務課より約6噸のコンクリート・ロック1個ご徑1時のワイロープ80尋を、又ダイ川として防舷材を海運課より譲り受け、之を遇岩の附近に定置繫船せしめ、傳馬船にて連絡をとりて作業せり。

基礎コンクリート工事 本作業は最大干潮時を利用して基礎外の水中コンクリート打をなすに在り、五月八日着手す。是より先準備として、工務課より凌渫用泥受船龍山丸(600噸)を借受け、荷積箇所の船底を釣上げ床張を施してコンクリート練用ランサムミキサーを据付け、本船のボイラーに連絡運轉せしめ、用水は船橋に木製タンクを取付け、スチームポンプを利用し、海水を吸揚することせり。

斯くして準備整ふや、五月三十日遇岩に繫船し、直に基礎假枠組立を始め同時に鐵筋組立を了す。以後干潮を利用し、既述ランサムミキサーの他に手練機2臺を使用してコンクリート打に着手、六月五日を以て基礎コンクリート打を終り、更に燈塔工事に移る。此間また諸多の困難と危險に遭遇せるも六月三十日無事に之を終る、更に基準補助コンクリート打を完了したるは七月三日なりす。

礁上作業時間250時、日數43日。因にコンクリート假枠は或程度まで組堅めおき、コンクリート打上げに従ひ順次現場に



遞信省燈臺局長
野添 愛善氏
(1) Mr. A. Nosoe,
the Director of the
Lighthouse Bureau.